

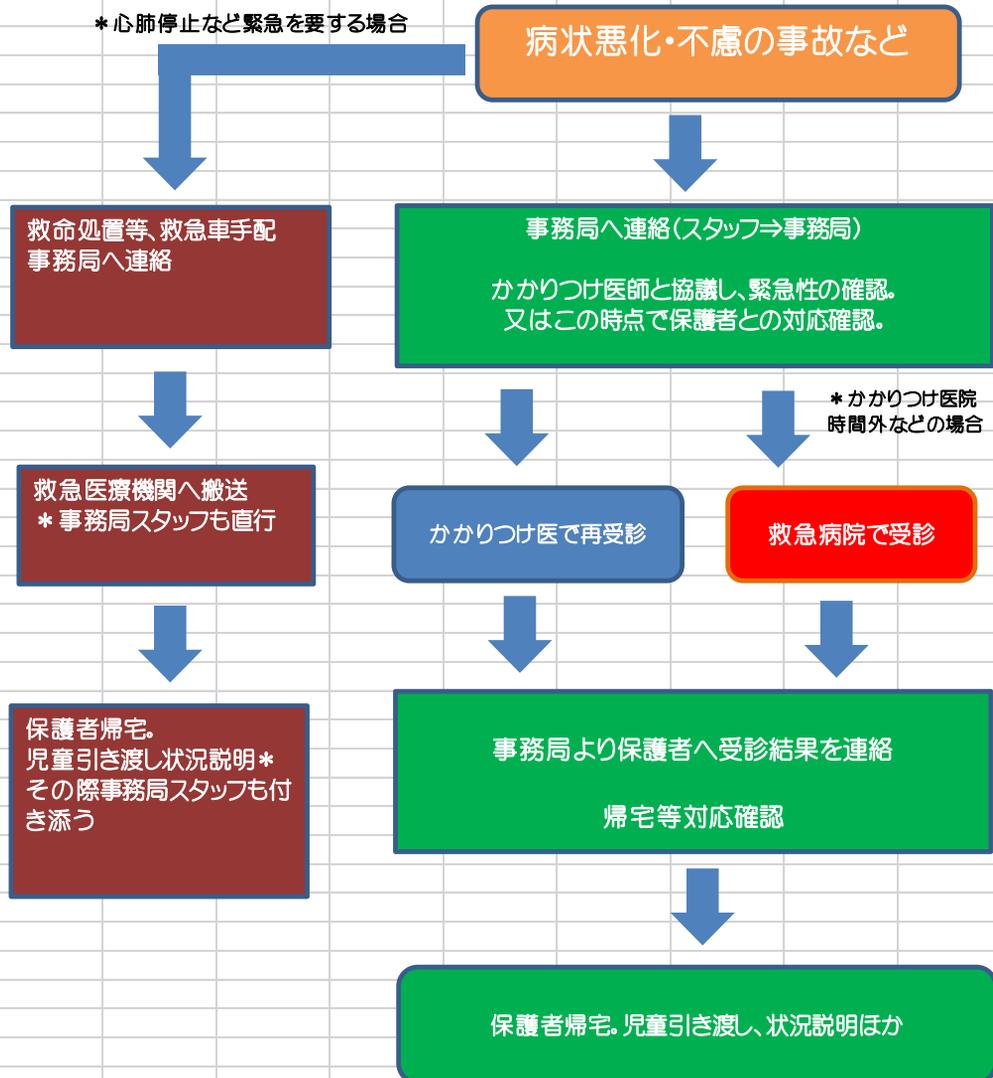
保育スタッフ研修資料  
『緊急時対応マニュアル』



# 1、 緊急時の対応フロー

## 【病状悪化や緊急を要するときの対応】

状態の悪化を確認した場合（発疹がでてきた、水分食事が全く取れない・飲めない・食べない、高熱、突然吐いた、ぐったりした、顔面蒼白、けいれん、意識レベルが低い、呼吸困難、心肺停止など）



### 【緊急連絡先】

- ①070-5260-2556
- ②080-8536-5901  
(24時間対応)

## 2、 救急対応でのポイント



### どんなときに救急車を呼べばいいの？

- ◆けいれんが止まらない、5分以上続く、繰り返す
- ◆呼吸がきわめて困難になっている（「せきが出る」→P3）
- ◆ひどい腹痛や頭痛がある
- ◆意識が無い
- ◆出血が激しく止まらない（鼻血は「いつもと様子がちがう」→P6）

### **119番通報**

- ① 局番なしの「119」をダイヤル
- ② 「救急車をお願いします」と伝える
- ③ 子どもの名前、年齢、住所、電話番号、場所の目印となる建物などを伝える
- ④ 持病がある場合は、その病名とかかりつけの医療機関を伝える
- ⑤ 子どもの症状を伝える

### 救急車を待つ間



- ① 健康保険証、母子手帳、お金を用意する。
- ② 玄関の鍵をあける。
- ③ 家族や近所の人がいれば、救急車が到着したときの誘導をお願いする。

### 救急車で病院に行くとき



- ① 救急隊の指示に従う。
- ② 家を出る前に火元を確認する。
- ③ 入院せずに帰宅することもあるので靴を持って行く。
- ④ 戸締りを忘れずに！

（社団法人 日本小児科学会）

### **こどもの救急ホームページ <http://kodomo-qq.jp>**

ホームページを開く→「気になる症状」をクリック→あてはまる症状を選択  
「救急車で病院に行く」「自家用車で病院に行く」「おうちで様子を見る」  
などの対処方法が表示されます。受診の判断の目安にしてください。





# 5、症状毎の対応フロー（嘔吐）



1回吐いたら1~2時間ほどは軟んだり食べたりせずにお腹を休めて！  
発熱+頭痛+嘔吐の3つがそろえば『髄膜炎』の可能性あり！要注意！  
緑色そして血性の嘔吐にも注意！お子さんはVVA・ママに感られたり、  
けがの痛みなどのストレスや不安が原因で嘔吐することもあります。

小児救急電話相談  
「#8000」を活用  
しましょう(P1参照)



## 吐いた



**✓ 医師に伝えること**

- ・吐いた回数
- ・吐いたものの内容
- ・どんな状態で吐いたか  
(げっぷと一緒に吐くなど)
- ・発熱や下痢など、  
嘔吐以外の症状について

**🍼 ホームケア**

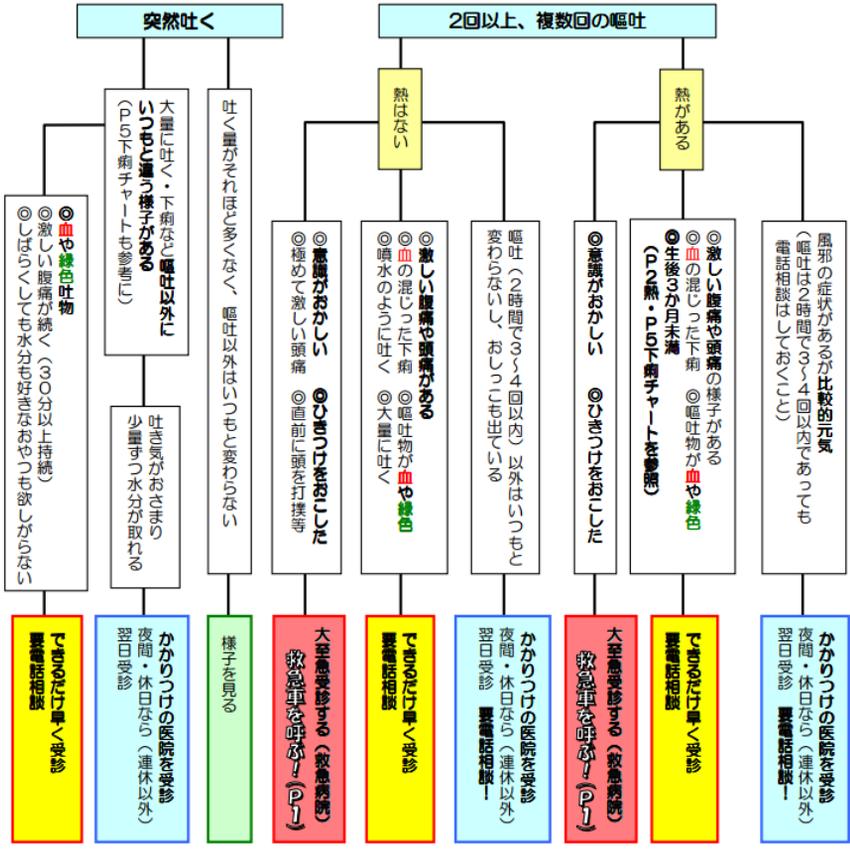
★赤ちゃんの好きなものを飲ませる。脱水症にならないよう、嫌がらなければ少しずつのまめに水分を補給してあげましょう。(P14参照)

★顔・体・衣類・寝具も清潔に。口のまわり、あごや耳の中を吐いたものが流れ込んでいないか確認があります。しめらせたガーゼで拭き取ります。

★吐き気が軽くなるまで、**やさしくおしゃべり**。だっこする時は赤ちゃんが吐くのを我慢させてお母さんは肩から胸にタオルを当てておしゃべりしてあげてください。

寝かせる時は上体を高くして顔を横にして。

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。



**赤ちゃんは少しの刺激で吐くことがよくあります**

赤ちゃんの胃は大人のように曲がった形ではなく、細長い筒のような形をしているため、大人より吐きやすいもの。また、胃の入り口である膈門の筋肉が未熟なため、ちょっとした刺激で吐いてしまうことがあります。授乳後に口の端からおっぱいやミルクを吐き出す吐く(いり)吐く(こ)があります。元気があり、体重が順調に増えていれば心配ありません。また、げっぷとともにおっぱいやミルクを吐いてしまったり、咳き込んで食べたものをぐとすのはよくあることです。吐いた量が少なく、機嫌がよくてほかに症状がなければ心配いりません。





## 8、 症状毎の応急処置について



### 絵で見る 子どもの応急処置



#### けいれん

けいれん時は顔や体を横に向ける！！  
むやみに、口の中に手や割り箸を入れない！！

けいれんや意識がない場合に、上を向いて寝かせると、肉の塊である舌がのどに詰まったり、痰や嘔吐物を誤嚥する恐れがある。右図のように**体や顔を横に向ける**と、呼吸しやすく、嘔吐物も誤嚥しにくくなる。



体や顔を横に向ける

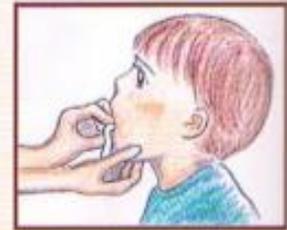
ほとんどの場合、数分で落ち着くことが多いので、けいれんが治まった後速やかに**かかりつけ医か小児救急窓口**に電話相談  
そこで受診方法やタイミングを聞く。

5分以上続いたり、繰り返す場合・・・**救急車を呼ぶ**

#### 口の外傷

やっちはいけないこと  
うがいや口ゆすぎは、固まった血を洗い  
血が止まりにくくなるので何度もしないように。

傷の上に清潔なガーゼ等を当て、親指と人差し指で挟んで10分間圧迫する。



#### やけど

やっちはいけないこと  
衣服など体に密着しているものは、皮膚と一緒にはがれる  
危険性があるので、無理に脱がせない。  
低体温を引き起こすので、冷たい水に浸してはいけない。

- 1 熱傷の進行を止め、痛みを緩和するために、最低10分は水で患部を冷やす。(近くに水が無ければミルクなどの冷たい飲料を用いても構わない。)
- 2 一旦冷やした後、衣服を慎重に脱がす。痛みが残っていれば再び冷却する。浮腫が始まる前に患部の衣服は除去する。(熱傷部に直接触れたり、水疱を破ったりしないこと。)
- 3 感染を防ぐため清潔な布で患部を覆う。ローション、油、軟膏を塗らない。冷やした後は、低体温に陥らないよう保温する。



少なくとも10分間は  
水で患部を冷やす

#### 【代用被覆】

手足の患部保護には清潔なビニール袋、  
ラップが感染防止に有効！

きれいなビニール袋等で  
保護する



台所用ラップで  
保護する

## 目の化学損傷

(化学薬品が目に入ったとき)

障害を残したり、失明に至る危険性がある。

- 1 健側の目を上にして10分以上、患側の目をゆるい流水で洗う。まぶたや目の周囲も十分に洗浄する。
- 2 大きめの清潔なガーゼでおおい、

**☆眼科医院・病院に電話相談・受診を！！**  
場合により、救急車も考慮。

※砂やごみが入った場合はスポイトや急須で洗い流す。

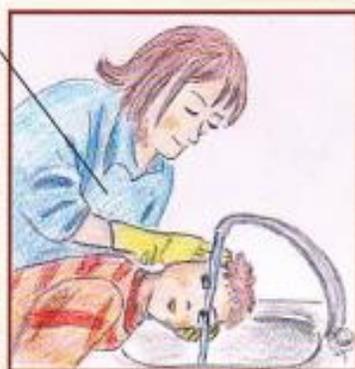
異物が刺さった場合は抜かずに病院へ！

(抜くと失明の危険もあるので、目を清潔なガーゼで覆い病院へ)

身近にある、目に入るととても危険なもの

- ・パーマ液
- ・アルカリ性のトイレ洗浄剤
- ・染毛液
- ・運動場の線引きに使う消石灰

ゴム手袋で  
手を保護する



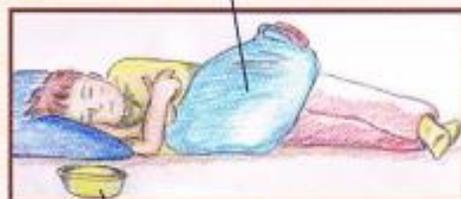
## 腹痛

- 1 楽な姿勢で寝かせる。吐くことがあるので、洗面器を用意する。
- 2 体を保温すると痛みが和らぐことがある。食べ物は与えない。

痛みがひどいとき、あるいは30分経っても治まらないときは・・・

**☆かかりつけ医や救急窓口に電話相談**

タオルで包んだ湯たんぽ  
を腹部に当てる



気分が悪い場合は洗面器など  
を用意しておく

## アナフィラキシーショック

アナフィラキシーは薬剤の接種(注射)昆虫・海産動物の刺傷・特定の食物の摂取などによって生ずる重篤なアレルギー反応で、数分内に症状が発現する。この反応は呼吸困難の原因となり、顔面や頭部の腫れを伴う時にはその危険性が増大する。

### アナフィラキシーショックの特徴

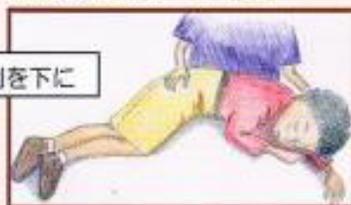
- ◆いつもと違う異常な落ち着きの無さ
- ◆赤い斑状の皮膚(ひどいじんましん)
- ◆顔面や首が赤く腫れる(ひどいじんましん)
- ◆まぶたのむくみ
- ◆げいげい言う、呼吸困難
- ◆脈が速くなる

**☆救急車を呼ぶ**

☆救急隊が到着するまで安心して  
静かに待つように説明する。

意識がない場合は、左側を下にして寝かせる。  
呼吸をしているか確認して119番。

体の左側を下に



呼吸困難に陥っている場合は、座らせて  
呼吸しやすい状態にし、119番。

楽に呼吸できる  
体位をとらせる

きつい着衣をゆるめる  
(特に首やウエスト)



## ぜんそく

せきが出る(3ページ)も参考に!

### 喘息の特徴

- ◆呼吸困難
- ◆呼吸性喘鳴  
(息を吐く時のゼーゼー、ピーピー音)
- ◆努力呼吸による疲労
- ◆青色を帯びた顔と唇(チアノーゼ)

- 1 部屋の換気を良くする。
- 2 落ち着かせ安心させる。  
楽に呼吸できるように  
前かがみに寝掛けさせる
- 3 吸入薬があれば吸わせる。

吸入薬をうまく  
吸入できるように  
する補助具もある



初めての発作のとき、心配な時は**かかりつけ医**や救急窓口に電話相談  
※電話で本人の咳や呼吸音を、医師や看護師さんに聞いてもらうと良い。

常備薬も無効で、発作が重症(激しい呼吸困難)である場合は

**救急車を呼ぶ**



## クループ

せきが出る(3ページ)も参考に!

### クループの特徴

- ◆吸気性の呼吸困難(息を吸うときのヒーヒー音)
- ◆短い吠え声の咳(犬やオットセイの鳴き声)
- ◆声がかすれたり、出にくくなる

### 重症な発作

- ◆小鼻や首の筋肉、肩が呼吸のたび激しく動く(努力呼吸)
- ◆紫青色の皮膚(チアノーゼ)
- ◆においを嗅ぐように顎・顔を前につき出し、苦しそうにする

- 1 ベッドで座位をとるように介助する。  
枕を頭と背に当てて支え、安心させる。

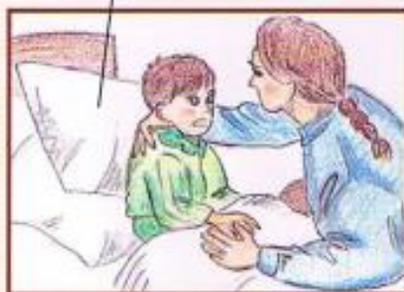
決して、本人が嫌がるのに  
無理やり横にして寝かせてはいけない。

- 2 お湯を出しっぱなしにした浴室や、閉め切ってお湯を沸かしている部屋など、蒸気のこもった場所に子どもを座らせ、楽になるように十分に蒸気を吸わせる。

症状が長引く場合は**かかりつけ医**や救急窓口に電話相談  
※電話で本人の咳や呼吸音を医師や看護師さんに聞いてもらうと良い。

重症な発作の場合は・・・ **救急車を呼ぶ**

背中と頭を支えながら  
起こし、座位にする



子どもが不安にならないようママは落ち着きましょう

お湯の蛇口を開放し  
湯船で湯気をたて、  
10分程度吸わせてみる



# 子どものSOS! こんなときどうする



## 発熱

熱が出た(2ページ) 薬剤師さんのアドバイス(13ページ)も参考に!

- \*39度近くあっても子どもの様子が元気なら心配ない。
- \*38.5度以上あり、さらに何も飲めない、眠れない、笑わない、顔色が悪い、ぐったりしているような場合は受診を。
- \*熱があるのに手足が冷たい場合は、これから熱が上がると思われるので、厚着をさせ毛布で暖める。
- \*手足が温くなれば、熱が上がりきったと考えられるので熱を下げる。
- \*生後3か月未満の場合は、判断が難しいので電話相談を利用する。

### 熱を下げる方法



#### ★3点クーリング

太い血管が走っている3点を冷やす。①首、②脇の下、③ももの内側(付け根)  
それでも下がらない時は坐薬などを使用する。(坐薬の使い方 13ページ参照)

★部屋の温度を25~27℃程度にし、衣服は薄着にする。

★水分をとる。(経口補水療法 14ページ参照)

★入浴は避け、蒸しタオルで体を拭いてやる。

## 発疹

症状が出ているうちに携帯などで写真を撮り、診察時に見せると良い。

- \*発疹の大きさ、水を含んでいるか、どこにできているかをよく見る。
- \*多くの場合、発疹だけで夜間救急にかかる必要はない。
- \*発疹が口の中や口のまわりにできている場合は、気管にも発疹があると考えられるので注意する。
- \*受診する場合は、ほかの患者にうつす可能性があることを十分に認識し、看護師に伝える。

## 頭部打撲

- \*コブができているか、出血の状況、顔色などをよく観察し、まず2~3時間室内で安静にする。
- \*コブができて、出血が少なく、顔色が良い場合は様子を見る。

コブができずに打った箇所がへこんでいる、出血が多い、ろれつが回っていない、顔色がよくない場合は、**すぐに脳外科**(小児科ではなく)を受診する。

## 誤飲

誤飲した物や同じものを必ず病院に持参すること!

- \*いつ、何を、どのくらい飲んでしまったかを把握する。
- \***タバコや電池を飲み込んだ場合は、すぐに受診!**

飲み込んだものによって対処が異なるため「中毒110番」に電話する。

◆大阪中毒110番(365日 24時間対応) 072-727-2499

◆つくば中毒110番(365日 9~21時対応) 029-852-9999

◆タバコ専用電話(365日 24時間テープによる情報提供) 072-726-9922

★薬や毒性のあるものは、ゴミ箱に捨てたり、食べ物と同じ場所に置かないようにしましょう。

#### ★特に多いもの

タバコ、蚊取りマット、  
ホウ酸団子、化粧品、  
漂白中のコップ類